

今週のみことば	「あなたの神が王となる」 (イザヤ書52章1節～10節) 「良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあつて、なんと美しいことか。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、『あなたの神は王であられる』とシオンに言う人の足は。」(52:7) (ヨハネの福音書7章25節～31節) 「わたしはその方を知っています。なぜなら、わたしはその方から出たのであり、その方がわたしを遣わされたからです。」(7:29)
---------	---

今日のメッセージ要旨

◎私たちは何かに囚われ、支配されている。それが目に見えるもの、金銭、物欲であればいつもそのことに心引かれていくのです。しかし、もっと大切な人格を持った御方との関係がどんなに大切かを考えたい。生ける神との関係をです。

◎イザヤ書52章には、神様が預言者イザヤに語りかけ、捕囚からの解放のために準備をせよと招かれたのです。「さめよ、さめよ」と二重命令をもって勧め、捕囚のシオンの娘に「力をまとい、美しい衣を着よ」との語りかけです。神様はイスラエルの歴史を紐解きながら「わたしの民はわたしを知るようになる。その日『ここにわたしがいる』と告げる者がわたしであることを知るようになる」と約束されたのです。これは真実に神様と交わり、礼拝する恵みの約束なのです。

◎「よい報せを伝えるもの」は預言者のことを言い、伝令のことです。福音を伝達する者の尊さと共に祝福が語られているのです。彼らは「平和」を告げ知らせ、「幸いな良い知らせ」を伝え、「救い」を告げ知らせる、のです。その源は「あなたの神が王となる」にあるのです。「主がシオンに帰られる」ことにあり、「主がその民を慰め」「エルサレムを贖われ」「神の救いを見る」ことが出来るのです。

「ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」(ペテロ①1:18～19)。「聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。」(ロマ12:13)。

◎ヨハネの福音書7章を通して、イエス様はエルサレムに密かに上られて御自分のことを語っておられるのです。即ち神様から遣わされたメシヤであるが、誰も知らうとしないと。イエス様は無用な危険を冒すことはせず、しかし行動するときはためらわず、イエス様は御父にあつてすべてを判断しておられたのです。

弟子たちは、ガリラヤの田舎でいくら奇跡を行っても世間に認められないから、政治の中心である「ユダヤに行きなさい」と進言した(3～4)。多くの人々が都に集う「仮庵の祭り」が近づいているからである。人に認められようと思うなら、もっと自分をアピールしなくてはと彼らは考えた。しかし、イエス様は彼らと一緒に行動できなかった、目立つことを避けられたのです。

人々と議論したり、病人を癒やしたり、人々を教えたりして用が済むと、エルサレムを去るのが通常だった(10:43～)。「ユダヤを巡ろうとはされなかった」のです。神の「風」(3:8)に身を任せて行動しておられらるイエス様の身軽さ、すがすがしさがまぶしい。人々はそのような主を必ずしも歓迎しなかったのです(43～)。

イエス様は神様から遣わされた御方です。神さまはイエス様のみ姿を持ってこの地上に現れてくださったのです。地上②降りてこられ、一人ひとりの心の内に宿り、王として支配されるためにです。

小生の母は娘に「教会に行こう」と誘われたが、「貧乏暇なし」と拒んでいました。ところが牧師夫人が遠路徒歩で田舎の家まで訪問してくださったのです。そのことがきっかけで家庭集會に、また教会にも出席し、受洗の恵みに与ったのです。